

桶川市図書館サービス基本構想（第2次）

（平成31年度から平成35年度）

暮らしとともにある図書館をめざして



桶川市教育委員会

目 次

I	第2次図書館サービス基本構想策定にあたって	3 P
1	図書館のあゆみ	3 P
2	第2次図書館サービス基本構想策定の趣旨	4 P
II	桶川市図書館の現状と課題	5 P
1	図書館施設及び運営状況	5 P
2	図書館サービス	7 P
(1)	資料収集と蔵書状況	7 P
(2)	利用状況	8 P
(3)	レファレンスサービス	12 P
(4)	児童・青少年サービス	14 P
(5)	障害者サービス	15 P
(6)	高齢者サービス	16 P
(7)	視聴覚サービス	17 P
(8)	郷土資料サービス	18 P
III	市民の図書館活動への参加と協働についての現状と課題	19 P
1	読書会活動	19 P
2	ボランティアとの連携	20 P
IV	桶川市第五次総合振興計画と図書館	21 P
V	これからの図書館サービスについて	24 P
1	基本理念	24 P
2	これからの図書館サービス	24 P
3	図書館施設の整備	27 P
4	図書館の運営	27 P
資料	「桶川市図書館利用者アンケート」の実施結果について（資料1） 統計資料（資料2、3）	

I 第2次図書館サービス基本構想策定にあたって

1 図書館のあゆみ

桶川市図書館は、昭和50年に移動図書館車「むぎぶえ号」がボランティアの協力を得て市内を巡ったことからサービスを開始しました。

このころの桶川市は、東京近郊の住宅都市として人口が増え、街が急速に大きくなっていきました。

その後、昭和62年に桶川市立図書館、昭和63年に桶川市立駅西口図書館（おけがわメイン内）、さらに平成4年に桶川市立図書館川田谷分室（桶川市川田谷生涯学習センター内）が開設され、2館1分室体制となりました。この体制は長らく続きましたが、平成16年の移動図書館車の廃止により、国道17号から東側地域のサービスポイントがなくなり、この地域への図書館サービスの提供については長年の懸案でした。

平成27年1月には、加納公民館に図書受渡しサービスポイントを新設し、蔵書の検索や貸出、返却が行える体制を整えました。

平成27年10月から駅西口図書館については、再整備に伴い、施設面積を約2.5倍に拡充、利用者のニーズによる閲覧席を増設し、滞在型図書館として生まれ変わりました。同時に、民間の豊富なノウハウを活かした指定管理者による運営により、定期休館日の廃止、開館時間の延長等、市民サービスの向上を図りました。また、OKEGAWA hon プラス+のイベントスペースにおいて、官民連携による新しい知の文化交流のイベントや講座などを開催することにより、新しい人の流れが生まれ、地域の賑わいの創出に繋がっています。

さらに、桶川市立図書館・桶川公民館の建物の大規模改修により、閲覧席の増設や館内の書架の配置と高さの見直しを行い、利用者が利用しやすい滞在型の図書館として、平成30年4月に市立図書館がリニューアルオープンしました。

平成31年4月には、市東側の坂田地区に坂田図書館を開館しました、これにより、駅西口図書館が4館を統括する中央図書館、他3館がそれぞれの地域の情報の拠点として、市内全域に図書館サービスを提供できる体制が整いました。

また、市民の方々と連携する読書会活動を推進し、ボランティアの方々との協働による子供向けおはなし会の開催や、障害者サービスの充実などを積極的に推進しています。

なお、コンピュータシステムは、昭和62年3月に導入しましたが、現在では各図書館がネットワークで結ばれ、利用者の利便性が向上しました。インターネットやOPAC(館内利用者端末機)からの資料の予約申込みや貸出期間の延長、

メールでの予約のお知らせなどができるようになっていきます。

2 第2次図書館サービス基本構想策定の趣旨

近年、市民意識の多様化や生活を取り巻く社会環境の変化により、市民の知的要求が高まる傾向にあります。このようなニーズに対応するため、桶川市図書館では平成26年3月に、第1次図書館サービス基本構想（以下、第1次サービス）を策定しました。

市民の知的要求に的確に応えることは、図書館の大きな使命と考え、そのためには、これからの図書館の在り方を示し、求められる図書館サービスの実現に向けて、諸施策を展開していくことが必要です。

今回の構想は、第1次サービスの課題を再検証し、残された課題・新たな課題の整理をし、これからの桶川市図書館の目指すサービスの方向性を示し、総合的に図書館サービスの充実を進めていくために策定するものです。

構想の期間を平成31年度から平成35年度の5年間とし、社会情勢の変化を踏まえ、必要となった場合は適宜見直しを行っていくものとします。



II 桶川市図書館の現状と課題

総合振興計画基本事業：2041 多様な学習機会の提供

主な取組：図書館サービスの充実（図書館）

1 図書館施設及び運営状況

【取組・成果】

平成 27 年 1 月、加納公民館に図書受渡しサービスポイントを新設し、4 施設をネットワークで結び、サービスの向上を図りました。

平成 27 年 10 月、中央図書館機能を備えた図書館として、駅西口図書館を再整備しました。また、OKEGAWA hon プラス+イベントスペースにおいて、官民連携の文化交流事業を実施し、生涯学習の場としての利用に加え、多世代交流の場としての利用もされています。

桶川市立図書館・桶川公民館の建物の大規模改修を行い、施設設備を更新し、書架のレイアウト変更と低書架化により見通しの良さを確保、閲覧席を大幅に増やすことにより貸出し中心から滞在型図書館へ移行し、平成 30 年 4 月に市立図書館がリニューアルオープンしました。

平成 31 年 4 月には、市東側の坂田地区に坂田図書館が開館し、このことにより、駅西口図書館を中央図書館と名称変更し 4 館を統括、併せて他の 2 館も名称変更し、坂田図書館も含めて 3 館がそれぞれの地域の情報の拠点となり、市内全域に図書館サービスを提供できる体制が整いました。

また、4 館全てにおいて平成 31 年 4 月から 1 団体の指定管理者が管理運営することにより、より一層の図書館サービスの向上を図ります。

(平成 31 年 4 月から)

館	主な機能	運営
中央図書館 (旧駅西口図書館) 規模：1,511 m ² 蔵書：106,144 点 (平成 29 年度末)	[サービスの拠点館] ・市内 4 館を統括 ・市民生活に直結する情報の提供窓口 ・図書館における市民との協働の拠点館 ・OKEGAWA hon+プラスとの連携	指定管理者による運営
桶川図書館 (旧市立図書館) 規模：532 m ² 蔵書：75,517 点 (平成 29 年度末)	[CD 貸出し及び地域サービスの拠点館] ・CD 貸出しの拠点館 ・資料管理・資料保存(書庫)の拠点館	指定管理者による運営

川田谷図書館 (旧川田谷分室) 規模：238 m ² 蔵書：37,539 点 (平成 29 年度末)	[郷土資料及び地域サービスの拠点館] ・郷土資料の拠点館 ・歴史民俗資料館との連携	指定管理者による運営
坂田図書館 (平成 31 年 4 月開館) 規模：456 m ² 蔵書：38,000 点 (収蔵可能冊数)	[児童・青少年サービス及び地域サービスの拠点館] ・児童・青少年サービスの拠点館 ・児童書・子育てに関する図書の収集 ・地域自治会等との連携	指定管理者による運営

【課題】

- 図書館サービス水準の維持
平成 31 年 4 月から図書館全館が民間の指定管理者による運営になるため、各館同一水準のサービス提供・維持が必要です。
- 川田谷図書館の改修
桶川市川田谷生涯学習センター内にある川田谷図書館について、施設の改修計画があり、今後、関係機関との調整が必要です。
- 職員の育成
図書館は全館指定管理者の管理運営になりますが、図書館行政を推進する職員の育成が必要です。



【取組の方針】

市民が、だれでも、どこに住んでいても、同一の図書館サービスを利用できる環境の維持に努めます。

- 図書館全館のサービス水準の維持に努めます。
- 川田谷図書館の改修に向け、関係機関と調整を図ります。
- 職員の育成に引き続き努めます。

2 図書館サービス

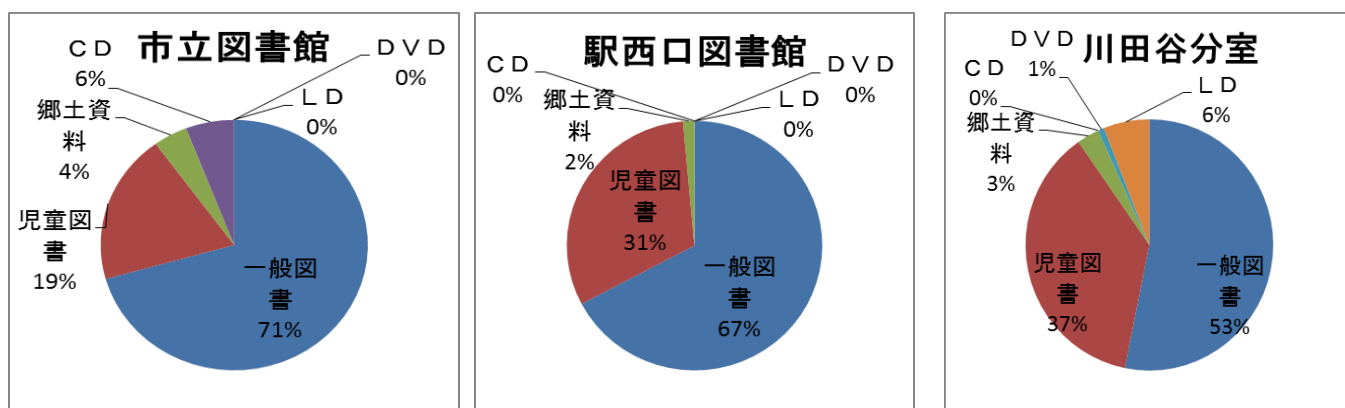
(1) 資料収集と蔵書状況

【取組・成果】

資料の収集は、各図書館の資料に特色を持たせるように進め、収集した資料は、閲覧・貸出に供するため保存・管理しています。

駅西口図書館では再整備を行い、蔵書の充実を図り、市立図書館においても、大規模改修により大幅な蔵書の整理を行いました。今後も、各図書館で継続的に蔵書の更新が必要となります。また、市立図書館では書庫を1か所にまとめ、川田谷分室の書庫の整理と併せて、資料の保存機能を高めました。

各館の資料種別割合（平成30年4月1日現在）



【課題】

○ 市民ニーズに応える蔵書収集

利用者の要望が多様化していく中で、資料に対する市民ニーズをとらえ、各館の特性に応じた資料収集を進めつつ、多様な蔵書の更新を図ることが必要です。

【取組の方針】

様々な分野からの資料収集に努め、質、量ともに蔵書を充実させます。

- 各図書館それぞれの特色を生かした資料収集に努めます。
- 所蔵していない図書資料については、相互貸借により利用者に提供し、専門的な図書資料についての収集も検討します。
- 市民の求める資料が適切に保存・管理できるよう、引き続き書架の整備に努めます。

(2) 利用状況

【取組・成果】

年齢別の登録者数を見ると、60歳代以上の登録者が多くなっています。平成30年8月に、図書館利用者アンケートを実施したところ、回答者の多くが60歳以上で、高齢者の利用が多いことが伺えます。

平成27年10月に駅西口図書館がリニューアルオープンしました。施設面積の拡充、指定管理者による運営により、定期休館日の廃止、開館時間の延長等、市民サービスの向上を図りました。その結果、平成27年度は貸出者数及び貸出冊数が微増、平成28年度は大幅増加し、桶川市第五次総合振興計画後期基本計画の中の図書館利用者数の目標値155,000人を上回りました。なお、平成29年度は、市立図書館の大規模改修のための休館により貸出しが減少しました。

また、過去5年間の市外の貸出者数及び貸出冊数も平成28年度から大幅に増加しました。(上尾、北本、鴻巣、伊奈、久喜の市町民の方の利用です。)

その一方、おはなし会などの参加状況を見ますと、平成27年度と29年度は施設改修のため長期休館があり、単純な比較ができませんが、子供の参加は横ばいです。そこで中央図書館では、新たな試みとして、月1回ペースで「あかちゃんタイム」を設け(現在は月2回)、「あかちゃんおはなし会」(不定期)も開催し、新たな参加者の獲得、さらには将来、図書館の利用者となってもらうよう努めています。

また、利用アンケート結果の要望の中で、開館時間の延長を求める意見が多く寄せられ、図書館利用のニーズが高いこともわかりました。

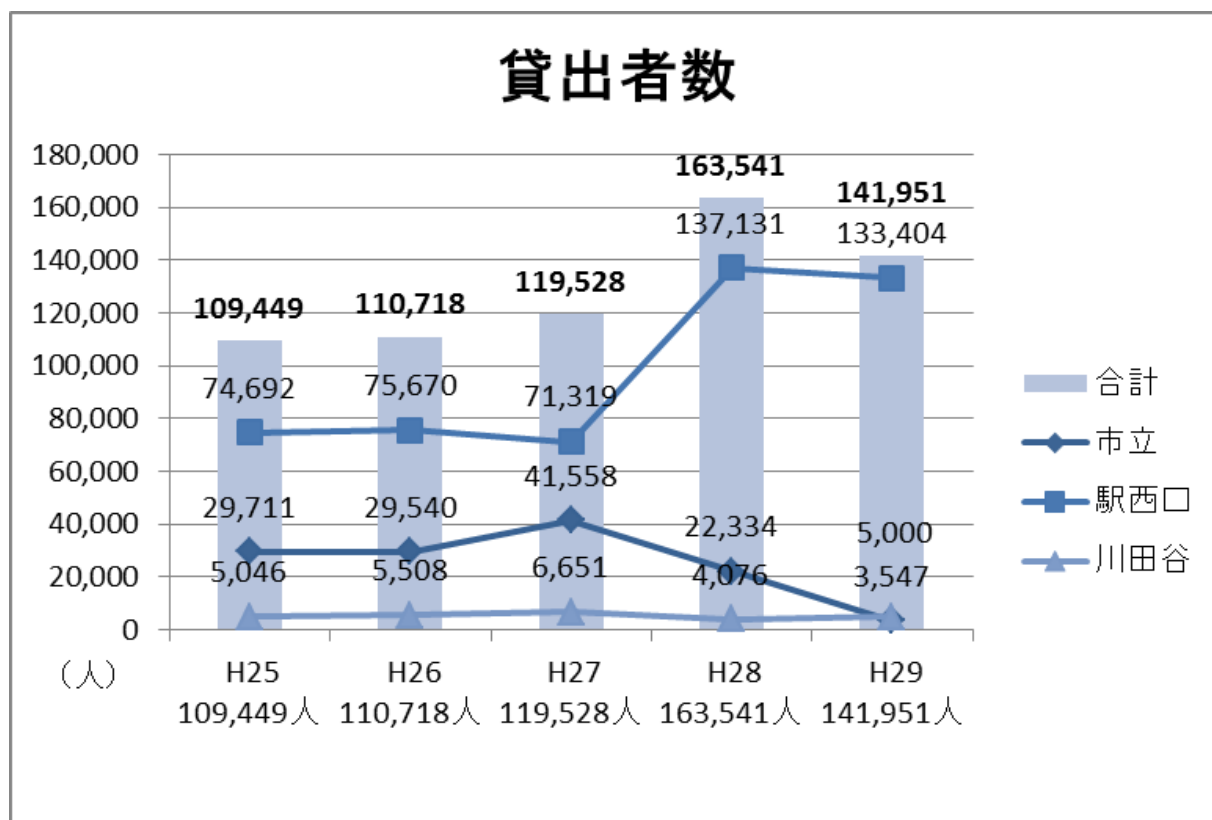
平成31年4月から図書館全館に指定管理者制度を導入することにより、開館日の拡大及び開館時間の延長をし、より一層の図書館サービスの充実を図ります。

登録者数の年齢別構成割合

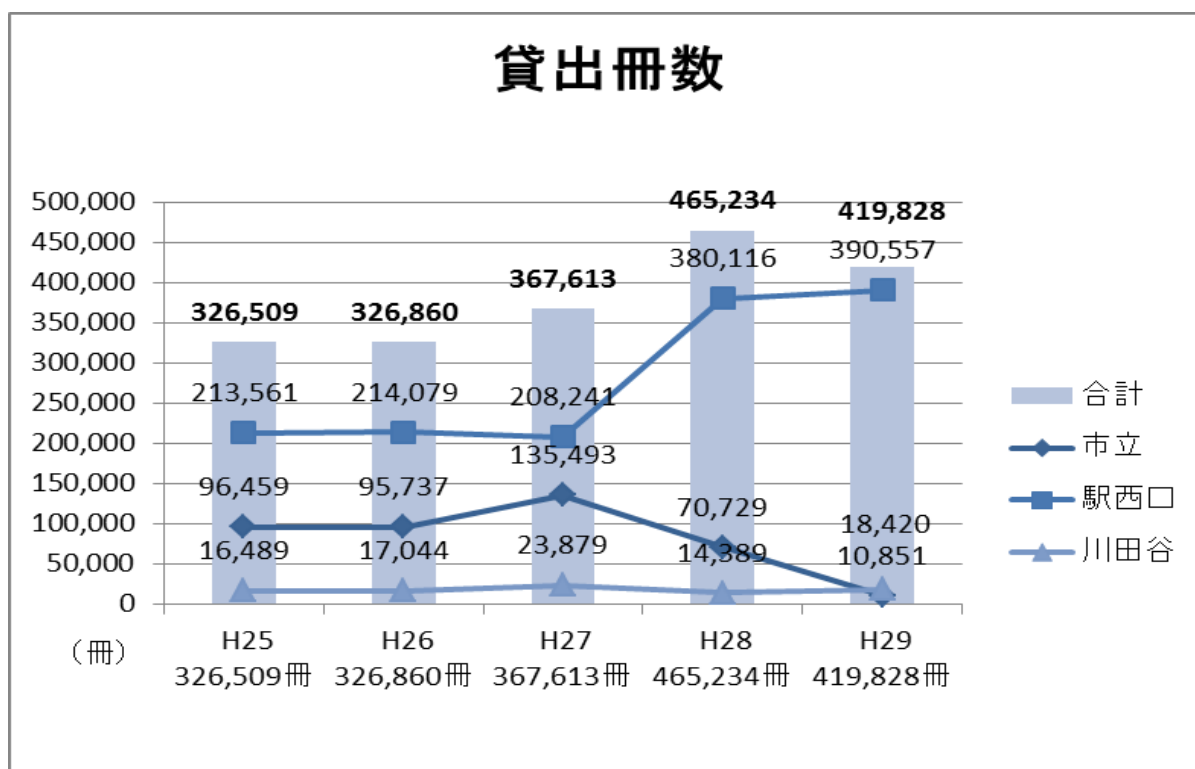
(平成30年4月1日現在)

0～6 歳	7～ 12歳	13～ 15歳	16～ 18歳	19～ 22歳	23～ 30歳	31～ 40歳	41～ 50歳	51～ 60歳	61歳 ～	合計
1%	5%	3%	4%	7%	12%	16%	17%	11%	24%	100%

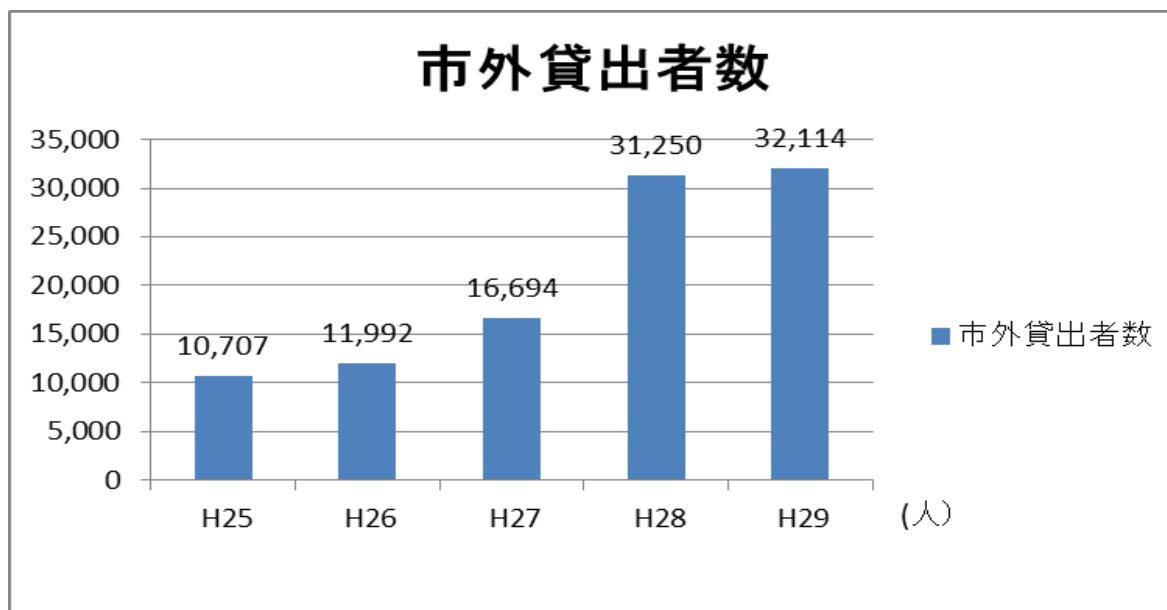
過去5年間の貸出者数



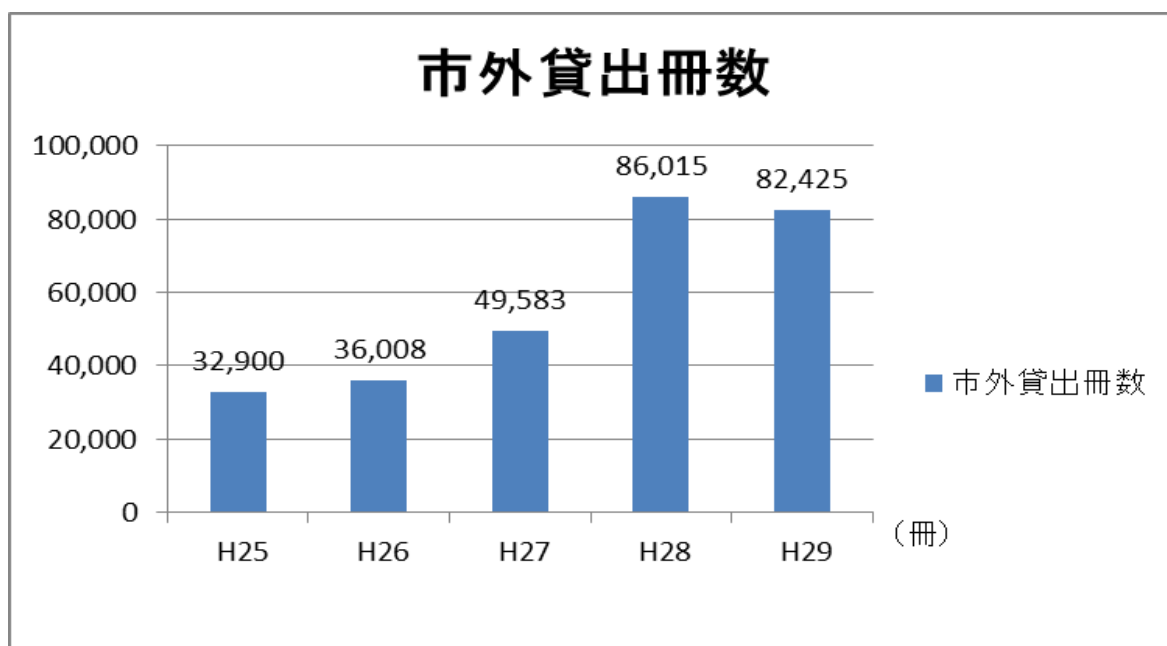
過去5年間の貸出冊数



過去5年間の市外貸出者数



過去5年間の市外貸出冊数



おはなし会など子供の行事参加統計

		H25	H26	H27	H28	H29
おはなし会 (土曜日)	回数	134回	146回	122回	106回	61回
	人数	947人	1,029人	768人	927人	895人
おはなし会 (イベント)	回数	5回	5回	13回	14回	15回
	人数	165人	109人	385人	518人	373人

※平成 29 年度は市立図書館の大規模改修のための長期休館により、回数、人数とも減少しています。

【課題】

- 図書館利用者の拡大に向けた取組みの必要性
図書館ホームページや広報などの活用、さらに新たな情報ツールによる、図書館事業やサービスのPRが必要です。
- 年齢層に応じた図書館サービスの展開
市民の歩むライフステージやニーズに応える図書館事業の実施が必要です。



【取組の方針】

図書館の利用促進のため、図書館サービスを市民に周知し、年齢層に応じた事業を展開するよう努めます。

- SNSやツイッターなどの情報ツールを活用し、図書館事業やサービスのPRを積極的に行います。
- 誰もが親しみやすく利用しやすい図書館づくりのために、利用者の年齢層に応じたサービスの充実に努めます。
- 開館日の拡大や開館時間の延長については、今後も利用者の声を聞き、必要に応じて検討します。

(3) レファレンスサービス

【取組・成果】

レファレンスサービスとは、利用者の相談に応じて、必要とする資料や情報を提供し、学習や調査・研究の支援を行うサービスで、利用者と資料を結びつける図書館の重要なサービスです。

平成 28 年度のレファレンスサービスの件数は、下の表のとおりです。現代における情報は多様化し、書籍だけでなく様々なメディアにわたっての調査が求められるため、レファレンスの能力向上に努めることが重要です。

一方、情報化の進展に伴い、利用者がインターネット等により情報を直接取得できる環境整備が必要となり、そのニーズも高まっていたため、駅西口図書館では、インターネット端末を 2 台増設し、合計 5 台にしました。同時に商用データベースを利用できる端末を 6 台設置しました。

また、駅西口図書館以外の 3 館にもインターネット端末を各 1 台設置しています。

レファレンス受付件数 (平成 28 年度)

	市立図書館	駅西口図書館	川田谷分室	合計
口頭	2,219 件	8,625 件	700 件	11,544 件
電話	155 件	480 件	10 件	645 件
合計	2,374 件	9,105 件	710 件	12,189 件

※平成 29 年度は市立図書館が大規模改修により長期休館のため、平成 28 年度のデータを掲載しました。

【課題】

- レファレンスサービスの周知と体制づくり
市民の生涯学習ニーズの多様化に伴い、学習、調査、研究に活かせる専門書の充実や専門的なレファレンスサービスが望まれています。このため、窓口で専用の対応ができるような体制づくりが必要です。
- レファレンスサービスに必要な資料や情報源の促進
利用者の求めに応じて、必要な資料や情報を提供するためには、参考図書の実践が必要です。同時に、利用者が自分でインターネットやデータベース等で調べものができるサービスの PR が必要です。



【取組の方針】

地域の情報拠点になり、市民生活の課題解決に役立つ図書館を目指します。

- レファレンスサービスの対応ができる専用の体制づくりに努めます。
- 参考図書充実及びインターネット等の利用促進に努めます。



(4) 児童・青少年サービス

【取組・成果】

児童サービスでは、ボランティアとの協働によりおはなし会を実施しています。

小中学校との連携では、学校団体貸出や図書館見学、中学生社会体験チャレンジ事業などの受入れを行っています。

青少年（ヤングアダルト）に対するサービスとして、中央図書館にヤングアダルトコーナーを設け、その年齢に配慮した読み物や、社会参加への準備に必要な資料を提供しています。

また、「第2次桶川市子供読書活動推進基本計画」を基に関係機関と調整を図りながら、取組を行っています。具体的な施策として、セカンドブック事業や読書アルバムの配布を行うことで、読書に対する意欲の向上に繋がっています。

その他、あかちゃんタイム、あかちゃんおはなし会を実施しており、小さいお子さん連れの方にも気軽に利用してもらえるようになりました。

【課題】

- 家庭・地域・学校・図書館の相互協力と連携体制の強化
保護者に子供の読書の大切さを伝え、地域においては、ボランティアの人材育成を行っていくことが必要です。また、学校との情報交換を密に行うことも重要です。図書館は、関係機関と協力すると共に家庭・地域・学校とより連携していくことが必要です。
- 子供の学習活動の場の提供
学習しやすい環境を整備することが必要です。



【取組の方針】

- 家庭・地域・学校と図書館が一体となり、子供の読書活動を支援します。
- 読み聞かせや読書の重要性について保護者の理解を促進し、家族で利用しやすい図書館を目指します。
 - 引き続き、地域のボランティアや学校と協力し、子供の読書活動の推進を図ります。
 - 児童書を充実させ、優良な図書を対象年齢別にリスト化して積極的に紹介します。
 - 各館に学習スペースを設け、学習活動を支援します。

(5) 障害者サービス

【取組・成果】

障害者向けサービスとして、主に視覚障害者向けに録音図書（カセットテープやデージー図書）の貸出を行っています。点訳図書の申し込みも可能です。来館のほか、郵送での貸出も行い、利用者の要望に応じています。

また、ボランティアの協力により、図書館だよりの録音や広報の拡大写本の提供を受けています。

設備としては、中央図書館に対面朗読室を設置し、ボランティアの協力による、対面朗読サービスを実施しています。デージー図書の録音再生機は中央図書館と桶川図書館に、拡大読書器は桶川図書館に常備しています。

【課題】

- 対面朗読や録音のためのボランティアとの連携が必要です。
- 利用者へのPRと実際の利用につなげる体制作り
障害のある方へ図書館の行っているサービスを周知し、利用につなげる方法、円滑な利用ができる体制作りを検討することが必要です。
- 図書館利用についてのサポート体制の充実
「障害者差別解消法」に基づき、身体障害、発達障害、認知症などの様々な障害のある方が利用する際にも、必要なサポートを行える体制を充実させることが必要です。



【取組の方針】

関係機関やボランティアと連携し、障害に応じたサービスを充実します。

- 引き続きボランティアとの連携を強化します。
- 障害者施設などに積極的に図書館サービスの周知を図ります。
- 障害に応じて、来館時の対応や資料提供など利用しやすいサービスが行えるよう努めます。
- 視覚障害者の読書支援のため全国の関係機関と連携し、引き続き録音図書等の相互貸借による資料提供を進めます。
- 通常の活字が読みづらい方にも利用できる資料の所蔵について検討します。

(6) 高齢者サービス

【取組・成果】

桶川市の人口に占める 65 歳以上（高齢者）の割合は、28.4%で(平成 30 年 4 月 1 日現在)、図書館利用登録者に占める 60 歳以上の割合も 24%に達しています。利用者アンケートから図書館の利用状況を見ると、高齢の利用者の割合が他の年齢層より多い状況となっています。

主に高齢の方に利用していただくため、各館に大活字本のコーナーを設けました。購入や各図書館間の移管により、蔵書の充実・整理を行いました。

また、中央図書館と桶川図書館は書架の高さも改善し、手に取りやすい配置にしました。

大活字本所蔵状況 (平成 30 年 4 月 1 日現在)

市立図書館	駅西口図書館	川田谷分室	合計
670 冊	691 冊	94 冊	1,455 冊

【課題】

- 高齢者が利用しやすいサービスの提供
高齢者の利用が増える傾向にあり、資料の収集や提供方法の工夫など、より利用しやすい方向に改善することが必要です。
- 館内で快適に過ごせるよう館内施設・設備への配慮も必要です。
- 実生活から社会参加、余暇活動など、資料や情報の提供を通じて高齢者を支援する役割が図書館に求められています。



【取組の方針】

高齢者に対応したサービスを提供します。

- 大活字本や高齢者向け資料の収集・保存に努めます。
- 図書館資料の提供方法について検討します。
- 居場所として、読書やライフワークの調査研究などで快適に過ごせる場所を提供します。

(7) 視聴覚サービス

【取組・成果】

視聴覚資料を収集し、館内での視聴や貸出サービスを行っています。館によって所蔵資料を分けて提供し、幅広い年齢層の方が利用しています。

(平成30年4月1日現在)

所蔵館	種類	所蔵資料数	備考
市立図書館	CDの貸出	CD 4,914点	貸出可能点数2点
川田谷分室	LD及びDVD の視聴	LD 2,215点 DVD 299点	視聴ブース2台 (館内視聴のみ)

※LD・・・レーザーディスク

【課題】

- 映像・音声資料など多様な種類の視聴覚資料の収集・保存
川田谷図書館のLDについては、再生機が生産終了により、今後更新が難しい状況のため、DVDの収集を進める必要があります。
桶川図書館のCDについても、定期的に新しいソフトを更新する必要があります。



【取組の方針】

視聴覚資料の充実を図ります。

- 利用者のニーズを考慮しながら、計画的な視聴覚資料の収集・保存に努めます。

(8) 郷土資料サービス

【取組・成果】

桶川市及び埼玉県内に関する出版物、行政刊行物を郷土資料として収集し、館内での閲覧や貸出サービスを行い、利用者の学習活動や調査・研究の資料として活用されています。

郷土資料所蔵冊数

(平成 30 年 4 月 1 日現在)

市立図書館	駅西口図書館	川田谷分室	合計
3,456 冊	1,498 冊	1,073 冊	6,027 冊

【課題】

- 桶川市及び埼玉県内に関する出版物と行政刊行物の収集
各関係機関と連携して可能な限り資料を収集し、利用者の学習活動や調査・研究に活用できるよう環境を整えることが必要です。
- 川田谷図書館を拠点館とする
川田谷図書館を郷土資料の拠点館として位置付けをしつつ、中央図書館の郷土資料コーナーを充実させ、歴史民俗資料館の資料を活用し、利用者に対して資料を提供できる体制を整えることが必要です。



【取組の方針】

郷土資料の充実を図ります。

- 川田谷図書館が郷土資料サービス拠点となり、資料の充実を図り、保存・活用に対して継続的かつ積極的に取り組みます。
- 中央図書館の郷土資料コーナーを充実させます。
- 図書館と歴史民俗資料館の資料管理システムを連携させることで、映像データを含めた郷土資料の充実を図ります。

Ⅲ 市民の図書館活動への参加と協働についての現状と課題

総合振興計画基本事業：2043 人材の育成と活用

主な取組：読書活動を推進するボランティア養成講座の開催

1 読書会活動

【取組・成果】

読書会及び創作に関わる実作サークルが複数活動しており、その多くが中央図書館を主な活動の場所としています。図書館は活動への助言や資料提供などを行っています。

読書会：22 団体（うち読書会連絡協議会加盟 14 団体）

実作サークル：8 団体（実作サークル連絡協議会加盟 8 団体）

（平成 30 年 4 月 1 日現在）

駅西口図書館を活動場所とする団体が多く、これまでは会場利用の面からも新たな読書会を立ち上げることが難しい状況でした。しかし、駅西口図書館のリニューアルにより読書会室の利用時間帯が広がったことから、新しい読書会を創立する動きも出ています。既存の会も含め、活動している団体が一覧できるチラシを作成するなど、新入会員を迎えるために図書館に関係する団体を紹介する取り組みも始めました。

【課題】

- 図書館利用団体は、図書館の活動全般を支援する市民団体でもありません。
多くの団体で高齢化が進む中、会員数を増やし、活動を維持する方策が必要です。



【取組の方針】

読書会活動を支援します。

- 読書会活動の推進に努めます。
- 図書館利用団体の育成に努めます。
- 図書館利用団体の紹介に努めます。

2 ボランティアとの連携

【取組・成果】

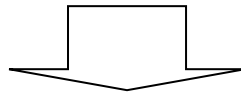
障害者サービス及び児童サービスにおいて、ボランティア団体の協力を頂いて事業を行っています。

- ・対面朗読ボランティア
- ・録音ボランティア
- ・おはなし会朗読ボランティア

図書館ではボランティア活動への参加の足掛かりとして、実践に役立つ絵本の読み聞かせ講座や音訳者の養成講座を開催し、ボランティアの育成を図りました。

【課題】

- 市民との協働による図書館サービスの推進
図書館サービスの効果的な実施に向けて、さらなる市民ボランティアの参加が求められています。
- ボランティアへの活動支援
新規参加者の募集及び、各ボランティアの技術を深めるための支援が必要です。



【取組の方針】

今後のより良い図書館運営をする中で、ボランティアとの協働をさらに進めていくことが不可欠です。

- ボランティアとの協働による図書館サービスの促進に努めます。
- ボランティアの養成と技術向上のための講座を開催します。
- 多方面にボランティアへの参加を積極的に呼び掛けます。

IV 桶川市第五次総合振興計画と図書館

桶川市第五次総合振興計画における基本構想は、計画期間を平成23年度(2011年)から平成32年度(2020年)までの10年間として、策定されました。

1 基本理念と将来像

桶川市第五次総合振興計画 基本理念

一人ひとりを大切にするまち
安心・安全に住み続けられるまち
人と自然が共生するまち
活気に満ち人が集うまち
みんなで作るまち

そして、この基本理念をもとに、桶川市の将来像を以下のとおりと決めました。

「みんなで つくり 育む 活気あふれる交流拠点都市 おけがわ」

「みんなで つくり 育む」とは市民一人ひとりがまちづくりの担い手となり、積極的に参加することを示しています。

また、「交流拠点都市」とは、首都圏中央連絡自動車道など広域幹線道路の結節点という交通利便性をいかしながら、にぎわいのあるまちづくりを進め、人・モノ・情報などあらゆる交流の拠点となる都市の将来の姿を示しています。

2 施策の大綱と基本事業

桶川市第五次総合振興計画の基本構想には、教育・文化行政における施策の大綱として、次のとおり定めています。

施策の大綱：「生きる力を育み 次代に繋げる桶川をつくる」

将来にわたって、まちの活力を持続するためには、子どもたちが創造性豊かに育つ環境づくりと、市民がさまざまな分野で学習し、個性や能力をいかす場が求められています。

このため、よりよい教育環境づくりの推進、生涯学習機会の充実などを図ることで、市民が自然や地域の文化にふれ、人格を磨き、学び、個性や価値観を認め合いながら、生きがいのある豊かな人生を築くことができるまちをつくりまします。

この施策の大綱の趣旨を実現するため、桶川市第五次総合振興計画後期基本計画（計画期間：平成 28 年度から平成 32 年度まで）に、図書館における基本事業として、次のとおり定め、推進しています。

〔基本施策〕

施策 204 生涯学習・生涯スポーツの充実	
対 象 : 市民	
目指す姿 : ● いつでも、どこでも、学習する場がある	
施策の目的達成度を測るための指標	
指 標	図書館利用者数 現状値 110,718 人（平成 26 年度） 目標値 155,000 人（平成 32 年度）
施策を取り巻く状況（現状と課題）	
現 状	○ 近年、少子高齢化の進行などにより社会構造が変化していく中で、市民ニーズもより多様化しています。 ○ 図書館は、利用者数・利用冊数共に減少傾向にありました。これは、施設の老朽化などが原因でしたが、平成 27 年 10 月に駅西口図書館がリニューアルオープンし、中央図書館機能が導入されたことにより、利用者が増えています。また、駅西口図書館では、イベントスペースを利用した官民連携の文化交流事業を実施しており、生涯学習の場としての利用に加え、多世代交流の場としての利用も期待されています。
課 題	○ 図書館は、生涯にわたる学習の場、子どもたちの読書活動の推進の場、そして情報発信の場としてますます重要であることから、市民ニーズに対応した図書サービスの充実を図る必要があります。また、読書環境の充実のため、駅西口図書館のリニューアルにより中央図書館機能を導入しましたが、あわせて、市内東部地域の図書館の整備が求められています。

〔基本事業の主な取組の内容〕

2041 多様な学習機会の提供
<p>図書館については、広域的な連携や学校など各種機関、団体との連携を進める中で、図書館機能の充実を図るとともに、さまざまな学習活動と生活に役立つ情報発信機能としての役割を推進します。また、多世代交流の場として、文化交流事業を積極的に実施します。</p> <p>主な取組：図書館サービスの充実（図書館） 駅西口図書館における官民連携の文化交流事業の実施（図書館）</p>
2043 人材の育成と活用
<p>人材の育成と活用を図るため、地域の人材を発掘・育成するとともに、生涯学習・生涯スポーツの活性化に向けた協力体制を整えます。</p>

主な取組：読書活動を推進するボランティア養成講座の開催（図書館）

2045 施設の充実

計画的な施設の更新と適正な管理などを行います。

また、図書館については、市内東部地域の図書館の整備を進めます。

主な取組：桶川市立図書館・桶川公民館の施設の改修（図書館、公民館）

市内東部地域の図書館の整備（図書館）

V これからの図書館サービスについて

前項までに記述したこれからの図書館の在り方、そして、桶川市図書館の現状を踏まえて、これからの図書館サービスの構想を以下のとおり定めます。

1 基本理念

「暮らしとともにある図書館をめざして」

趣 旨

桶川市図書館は、常に市民の身近にありたいと願い、活動を続けてきました。また、総合振興計画における桶川市の将来像の中で、「みんなで つくり 育む」という考え方が示されています。

桶川市図書館は、市民にとって最も身近な情報提供機関として、この街での暮らしが豊かなものとなるよう、お手伝いする場でありたいと考えています。

2 これからの図書館サービス

(1) 市民ニーズに応える蔵書収集

- 様々な分野からの資料収集
幅広い分野からの資料を収集し、蔵書の充実に努めます。
- 各館それぞれの特性を生かした資料配置
各館の特性を生かした資料配置を行い、特色ある蔵書を構成するよう図ります。
- 専門的な資料の収集
専門的な資料について収集を検討します。
- 資料を適切に保管できる書棚の整備
資料の保存及び管理のため、書架や書庫の整備に努めます。

(2) 市民に対する図書館機能の周知及び、年齢層に応じた事業の展開

- 図書館未利用者への働きかけ
SNSやツイッターなどの情報ツールを活用し、図書館事業やサービスの周知を積極的に行います。

- 年齢に応じた図書館サービスの推進
児童書、大活字本や視聴覚資料等の充実に努めます。
 - 官民連携の知の文化交流事業の推進
OKEGAWA hon プラス+イベントスペースを利用して、文化交流事業を継続して行います。
- (3) 地域の情報拠点になり、市民生活の課題解決に役立つ図書館を目指す
- レファレンスサービスの周知と体制づくり
レファレンス専用の対応ができる体制づくりに努めます。
 - 利用者が情報を直接取得できる環境の強化
参考図書の充実及びインターネット等の利用促進に努めます。
- (4) 子供が読書活動に親しむための体制を強化する
- 保護者に子供の読書の大切さを伝える
家庭でも読書について理解を深めてもらえるような働きかけや家族で利用しやすい図書館環境を目指します。
 - 学校・地域のボランティアとの連携を深める
ボランティアと協力し、おはなし会や子供向け事業を継続して行います。
学校と情報交換を密に行い、団体貸出や図書館見学・体験を通して学習や読書の支援を行います。
 - 子供の読書活動の推進
小学新1年生に対する利用登録の呼び掛けを行っていきます。
セカンドブック事業の推進や読書アルバムの配布を行います。
 - 児童書の充実と優良図書の普及
児童書を充実させ、優良な図書を対象年齢別にリスト化して積極的に紹介します。
 - 学習活動の場を提供する
子供が学習活動をしやすいように環境を整え、支援します。
- (5) 障害のある方へのサービス
- 関係機関やボランティアと連携した、障害に応じたサービスの充実
障害者サービスのPRに努めます。
通常の活字が読みづらい方が利用できる資料の所蔵を検討します。
いつでも気軽に利用してもらえる柔軟な対応を心がけます。
全国の図書館との連携による録音図書等の提供の推進を図ります。

サービスにおけるボランティアとの協働（録音資料の製作、対面朗読等）を図ります。

(6) 高齢者を対象としたきめ細かなサービスの提供

- 高齢者向けの資料の収集や情報の提供
大活字本コーナーの充実に努めます。
所蔵資料を活用するための情報提供を図ります。
高い学習意欲に答えるレファレンスサービスの充実に努めます。
公民館等、他学習機関との連携による学習機会の周知を図ります。
- わかりやすく、手に取りやすい配架と環境整備
利用しやすい館内環境の整備に努めます。
学習・調査・読書等、長時間滞在できる環境の整備に努めます。

(7) 視聴覚サービス

- サービス拠点館の視聴覚資料・環境の整備
川田谷図書館のDVDの活用・収集について検討します。
桶川図書館のCDの更新に努めます。

(8) 郷土資料

- 郷土資料の収集と活用環境の整備
川田谷図書館を拠点に歴史民俗資料館と連携して郷土資料を充実させ、その保存と活用に対して積極的に取り組みます。
中央図書館の郷土資料コーナーを充実させます。

(9) 読書会活動

- 読書会活動の推進と図書館利用団体の育成
活動場所の提供を図ります。
活動への助言や援助に努めます。
新入会員を増やすため、活動の紹介に努めます。

(10) よりよい図書館運営のためのボランティアとの連携

- ボランティアとの協働による図書館サービスの推進
ボランティアとの連携を深め、協働のあり方を検討します。
利用者ニーズを把握し、更なる活動の機会を検討します。
講座等の開催や学校への呼びかけを通し、新規ボランティアの参加

促進に努めます。

3 図書館施設の整備

(1) 既存施設の健全な管理

- 川田谷図書館の改修

川田谷図書館の改修に向け、関係機関と調整を図ります。

4 図書館の運営

(1) 図書館管理運営とサービス水準の維持

- 指定管理者の管理・監督

指定管理者が図書館の適切な管理運営を行い、各館同一水準の図書館サービスが提供できるよう、教育委員会が引き続き管理・監督を行います。

図書館利用統計（平成 29 年度）

(1) 個人貸出

(ア) 貸出等

	市立	駅西口	川田谷	加納	合計
開館日数	47日	358日	275日	203日	883日
利用者数	3,252人	133,404人	5,000人	295人	141,951人
1日当たり	69人	373人	18人	1人	161人
利用冊数	10,409冊	390,577冊	18,420冊	442冊	419,828冊
1日当たり	221冊	1,091冊	67冊	2冊	475冊

(内 訳)

	一般書	児童書	雑誌	紙芝居	CD	計	前年度
冊・点数	245,629冊	152,057冊	14,973冊	4,245冊	2,924点	419,828冊	465,234冊

(イ) 館内利用レーザーディスク（内DVD）

利用者数	420 (6) 人
------	-----------

(ウ) レファレンス件数

口 頭	電 話	文 書	合 計
8,597件	505件	1件	9,103件

(2) 団体貸出

利用団体数	426団体
利用冊数	2,695冊

(3) 貸出文庫

利用団体数	97団体
利用冊数	725冊

(4) 相互貸借

貸 出	借 受
2,040冊	5,462冊

(5) 広域利用統計

市町名	北本市	鴻巣市	上尾市	久喜市	伊奈町
利用者数	6,473人	1,283人	22,968人	645人	745人
利用冊数	16,089冊	2,865冊	59,453冊	1,442冊	2,576冊

※AVを含む

(6) 登録者数

登録者数	45,184人
登録率	60.00%

平成 29 年度末蔵書数

(冊・点)

	市立	駅西口	川田谷	合計
一般書	59,086	69,890	19,653	148,629
郷土資料	3,456	1,498	1,073	6,027
児童書	10,037	22,962	8,476	41,475
絵本	5,703	8,910	4,791	19,404
紙芝居	449	625	440	1,514
雑誌	1,902	2,259	592	4,753
C D	4,914	—	—	—
L D	—	—	2,215	2,215
DVD	—	—	299	299
その他AV	8	—	—	8
合計	85,555	106,144	37,539	229,238

桶川市図書館サービス基本構想（第2次）策定時

	桶川市教育委員名簿	
	岩田 泉	教育長
	水村 実男	教育長職務代理者
	小野原 典子	委 員
	青木 健志	委 員
	西永 和子	委 員
	秋山 節子	委 員
	桶川市図書館協議会委員名簿	
	長野 幸枝	委員長
	高橋 英一	副委員長
	小林 松司	委 員
	松田 寛子	委 員
	岸 典子	委 員
	天沼 千栄子	委 員
	鈴木 泰子	委 員
	松木 修一	委 員

桶川市図書館サービス基本構想 (第2次)

(平成31年度から平成35年度)

平成31年4月発行

編集・発行 桶川市教育委員会

〒363-8501 埼玉県桶川市泉一丁目3番28号

電話 048-786-3211 (代)

Fax 048-786-5043

※表紙のイラストは桶川市図書館のシンボルマークです。